

「自ら考え、進んで表現できる児童の育成」

～基礎・基本の定着を図る算数科指導の工夫を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 算数科における児童の実態を調査・分析し、課題を明らかにする。
- (2) 算数科における基礎・基本の定着を図る授業づくりをし、授業研究で検証する。
- (3) 一人一実践を公開し、教師としての力量を高める。
- (4) Q-U調査の実施と分析・活用の充実を図る。

2 研究実践

(1) 児童の実態調査

・NRTや学力学習調査等の結果から、各学年の算数科における実態を調査・分析し、基礎・基本の定着にはどのような指導が必要かを検討した。

(2) 算数科における基礎・基本の定着を図る授業作りをし、授業研究で検証。

・児童の実態を基に、基礎・基本の定着を図る授業研究と日常の取り組みを行い検証した。

(3) Q-U調査の分析・活用の充実を図る。

・Q-U調査の分析をK-13法を使って行い、学級経営に生かした。

(4) ブロック研究

【高学年ブロック】

① 研究内容：

ア 算数科における、基礎・基本の定着を図る授業づくり

イ Q-U調査の結果を生かした学級作り

② 授業実践

第5学年 算数科 教材名「比べ方を考えよう」

授業者 原藤 生府教諭

目指す単元の目標；面積，匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し，
比べることができる。

指導助言；山梨大学大学院教育研究科 一瀬 孝仁准教授

【低学年ブロック】

① 研究内容

- ア 算数科における，基礎・基本の定着を図る授業づくり
- イ Q-U調査の結果を生かした学級作り

② 授業実践

第1学年 算数科 教材名「ひきざん」

授業者 金井 京子教諭

目指す単元の目標；11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え，表現する。

指導助言； 峡東教育事務所 小林俊彦主幹・指導主事

II 成果と課題

1 成果

- ☆子どもたちの実態を分析し，実態に応じた課題の提示や教材の工夫ができ，基礎・基本を大切にできる授業展開ができた。また，考える時間を保証することが，十分な理解を得るためには有効であった。
- ☆一人一実践をすることで，基礎・基本の定着を図る算数指導について，それぞれの学年の工夫が見られ，勉強になった。授業を見合うことで得ることが多かった。
- ☆山梨大学の中村享史先生を招いての学習会がとても有効であった。
- ☆Q-U調査の結果をK13法で分析することにより，目標や問題点が明確になり，学級での取り組みに生かすことができ，成果が見られた。

2 課題

- ★日常の取り組みが，もう少し必要だった。具体的に継続して研究主題に迫れるような実践を行っていくことをもう少し意識したい。
- ★個人差がとても大きく，学力差への対応が難しい。
- ★全学年で傾向や実態が分かる統一したアンケートを実施し，具体的な数値として実態を把握し，変容を見ることも必要ではないか。

III 成果物

- | | | | |
|---|------|----------|-----------------------|
| 1 | 第1学年 | 算数科学習指導案 | 教材名「ひきざん」 |
| 2 | 第2学年 | 算数科学習指導案 | 教材名「九九を作ろう」 |
| 3 | 第3学年 | 算数科学習指導案 | 教材名「はしたの大きさの表し方を考えよう」 |
| 4 | 第4学年 | 算数科学習指導案 | 教材名「広さを調べよう」 |
| 5 | 第5学年 | 算数科学習指導案 | 教材名「比べ方を考えよう」 |
| 6 | 第6学年 | 理 科学習指導案 | 教材名「てこのはたらき」 |
| 7 | 第6学年 | 算数科学習指導案 | 教材名「資料の調べ方」 |
| 8 | たんぽぽ | 算数科学習指導案 | 教材名「形をしらべよう」 |

(研究主任 新海小緒里)